

知事記者会見（平成21年7月21日）

●知事発表

- (1) 台湾出張を終えて
- (2) 秋田港シーアンドレール構想パイロット事業について

●幹事社質問

- (1) 衆議院の解散及び総選挙について
- (2) 全国知事会について

●その他の質問

- (1) 秋田市新城川の改修について

時間：12：59～13：30

場所：県庁プレゼンテーションルーム

(幹事社)

少し早いですが始めさせていただきます。
まず、知事から発表事項をお願いします。

(知事)

私からは2点程お話を申し上げます。

先週、13日、14日に全国知事会が三重県でありまして、その足で、台湾の高雄へ行って、ワールドゲームズの開会式に出席してきました。高雄では開会式の前日、高雄市の市長さんはじめ関係者をお招きをして、秋田ナイトという交流会を行い、秋田の観光や物産のPRをしました。次の日、日中は、高雄市の交流協会等々を訪問し、いろいろな情報交換をして、夜にワールドゲームズの開会式に参加しました。（開会式の会場となった）競技場は北京オリンピックの競技場ほどではないですが4万人収容の大変大きな会場で、しかも、花火満載という、大変派手なパフォーマンスの開会式でした。馬総統もお見えになり開会宣言をしました。

次の日は、台北へ新幹線で入り、秋田空港にチャーター便で入っている航空3社を訪問しました。秋田市長の時も、行っておりましたけれども、さらにチャーター便を増やしてもらうようお願いをしてきました。台湾の方でも東北・北海道が人気があり、特に北海道は非常に人気があるようです。東北も人気が出てきているということでしたので、これからもっと増やしていこうということでお互いに情報交換をさらに綿密にして行きましようというお話をしました。

また、もう一つは「ブリーズ」という百貨店チェーンで秋田の農産物を扱っていただいていますので、そのお礼と、さらにこれからまたたくさん買っていただけるようにということで、「ブリーズ」の社長さんにもお会いしてきました。秋田の農産物については高い評価をしておられまして、これからどんどん売るので、大いにいいものを作ってくれというお話でした。若干の注文、アドバイスもあり、非常に参考になりました。

今回、ワールドゲームズの開会式は3時間程でしたけれども、その他の時間を使って秋田のPRがかなりできたのかなと思っています。

これらのところは前から秋田との関係がありましたが、知事になってあまり時間を置かずに行きましたので、大変好意的に受け止められたような感じがいたしました。

これが第1点目です。

2点目は、この後、国土交通省の東北整備局の秋田港湾事務所の小澤所長さんから記者発表がある予定ですが、秋田港のシーアンドレール構想の実現に向けて今回、シーアンドレール輸送のパイロット事業が実施されることになりました。このシーアンドレール構想については、秋田で官民挙げてこれに取り組み、予備実験のようなことも去年の冬に行いましたが、さらに一歩進めた形でこのパイロット事業が、国に採択されたということです。これによって構想実現に向けて、今度は具体的な作業にも入ることができますので、大変喜ばしいことと考えております。

私の方からはこの2点であります。

(幹事社)

発表事項の中で、先程、秋田の農産物にアドバイスや注文もあったとおっしゃられましたが、具体的に教えていただけますでしょうか。

(知事)

秋田ブランドというものが単に一つのもの、例えばリンゴだとか、梨だとかだけにつけるのではなく、外に売るときは、何らかの統一的なブランドをつけた方がいいんじゃないのかということです。ブランドの中に、いろんなバージョンがあるほうが消費者に受け入れやすいと。果物でも桃とスイカとリンゴが別々のデザインの箱だったりしますが、そういうものはできるだけ統一した方が台湾では売れるということです。特に果物なんかは、我々は、リンゴだったらリンゴだけをいっぱい食べるんですが、ホテルなどでは、いろんなフルーツが少しずつ出てきます。海外の方はフルーツを3種類、4種類、少しずつ食べるという習慣があるものですから、すべての品目に対する統一イメージを作ると非常に売りやすいということで大変ためになりました。

(幹事社)

それは台湾のどなたからのアドバイスでしたか。

(知事)

「ブリーズ」というデパートの社長さんからです。ここは、新しいデパートで特に女性のファッション関係の有名ブランドが台北では一番多く入っています。高級食材も売って

いて、秋田のものも高級食材というイメージで売っていただいています。11月にまたフェアをやるということです、大々的に台湾の皆さんに買っていただくことを期待しています。

(幹事社)

発表事項に関してご質問ある社があればお願いします。よろしいでしょうか。

では、幹事社質問の方に移らせていただきます。

衆議院解散が決まった訳ですけど、改めてなんです、今回の選挙を知事はどのような選挙だというふうにお考えになっていらっしゃるのでしょうか。

(知事)

今、1時頃・・・もう解散したのかな・・・どう言ったらいいでしょうか、ほぼ任期満了に近い形です。ここ約1年間の間、解散という言葉が出ない日がなかった。それというのも、世界的な景気後退という状況の中で、政治に対する様々な期待というものが片方であり、それが解散という形で、政治行動に移るのかなという予測が国民の中にあっただんじやないかと思います。今回の解散というのは、いろんなファクターがありますけれども、日本の将来に向けての非常に節目となる、あるいは場合によっては一定の間の混乱の始まりということにもなる可能性もあります。そういう中で我々は地方分権というものを非常に大きなテーマとして各政党にそれを突き付けている訳で、それぞれの国民、県民、市民、同じですけども、国民の中には、今回はちょっと今までとは違った思いも抱きながらの投票行動になるのかなと。もう一つは4年前の郵政解散の時の劇場型選挙、あるいはその争点の単一化によるシンプルな形での選挙とはちょっとまた違っていています。その反省も踏まえた上でのいろんな政治アクションが有権者の方にも立候補者の方にも出てくるような感じがいたします。

(幹事社)

混乱の始まりではないかとおっしゃいましたが。

(知事)

実際、今の状況では、どういう形になっても絶対多数という形には・・・もしかしたら、絶対多数なるかもしれませんが・・・いずれ自民党さんが勝つとしても非常に微妙な差だと思います。また、民主党さんが勝っても、今度は予算も含めてこれからの政治日程をこなしていかなきゃならないという現実の対応を突き付けられる訳であります。そういう意味からすると、通常の単一事案による対決の上での解散というよりも、いろんな要素を含んでの解散ですので、様々な形で一発でストーンと収まるのかということ、落ち着くまではもうちょっと時間がかかるのではないのかなと思います。

(幹事社)

今回の選挙と選挙後に向けて秋田県の知事として望むことがあれば教えていただけますか。

(知 事)

どこの知事も同じでありますけれども、我々としては、地方分権の推進というものは、行政マターではできません、これはやはり政治マターでないととてもできない。政治マターとしてやるためには、やはり政党はマニフェストにきっちり書いていただいて、それを実現していただくということです。もう一つは、現実の財政論がある訳で、予算編成、間もなく予算の概算要求になる訳ですが、そういう意味では税財政論についてかなりきちっとした形で示していただかないと・・・我々としてはそういうところについて、興味というよりも不安があります。単に票が欲しいということでのばら撒きも困りますし、空約束も困ります。一方で税収がこのとおり減っている訳ですので、どういう状況の中でも財政の健全というのは避けて通れない。その中でどういう形で取捨選択して国民生活に期待が持てる予算配分をするのか、これは非常に難しいですね。単一の切り方はできないといつも言うんですけども、1か0かのデジタル的な考えで進めると、また揺り戻しがくるので・・・これから具体的にマニフェストが出てくるでしょうから、少なくともその部分については評価しようと知事会ではなっています。

いずれにいたしましても、今回はそういう意味ではマニフェストそのものが非常に真剣味を持って各政党がそれを作成するということになるんじゃないかと思います。

(幹事社)

今の関連ですけれど、先日の全国知事会ではマニフェストを採点しようということと、知事会としては支持政党を表明しないというようなことを選挙に関連して決められたと思うんですけど、これに関して知事のご意見は。

(知 事)

あの時の状況ですけれども、最初に東国原宮崎県知事から、この場で政党を支持するかしないかの多数決を取りたいというお話がありました。それに対して他の知事からは、政党支持というのは地方分権、財政のみならず国防、外交、全般にわたるものであるから、そこまで我々は関与する立場ではないということで、政党支持については否定的な意見が大半でありました。そういう中で橋下大阪府知事が、政党支持という問題については、やはり知事会としては筋違いじゃないのかと。但し、地方六団体も含めて、これまでずっと地方分権について国に対して強く要望というか要請している件でありますので、この点についてはやはりマニフェストを比べ、そしてそれに対しては知事会としての評価をした方がいいんじゃないのかという意見でありました。これにもいろいろ議論がありまして、そこまではどうかという意見もありました。私は、もう割り切ってやるべきだと、全国市長会会長の時も何回も知事会等々と連携して地方分権の推進について、国に対して最重点要望としてやってきましたので、私は今回はきちっと突き付けて、点数をつけると、それによって選択するかどうかは別です。これは政党支持というのは、先程言った他の面も含めてですので・・・但し、地方分権については、地方財政も含めて点数をつけると、そういう作業にこれから入るといって、最終的には全会一致の形でこれが決まった訳であります。

(幹事社)

ありがとうございました。
各社さん、質問があればお願いします。

(記者)

確認なんですけど、マニフェストの評価について割り切ってやるべきだという発言をされたのは、新聞記事によると、マニフェストの評価を全員で点数をつけるか、最終的に決まった特別委員会で評価するかという形の議論があって、報道によると知事は全員による評価について割り切ってすべきだというふうにおっしゃったというふうに報道されているんですけれども。

(知事)

ちょっとそういう意味ではないです。

(記者)

違いますか。

(知事)

知事会としてのルールで、全員がやらないと知事会としての意見とならないのかどうかということで、最終的な会長の受け止め方は、評価を具体的に作業する場合に、その評価に積極的に関わる関わらないはその知事にお任せすると。ただ、出た評価については、知事会としての評価ということで了承したいと、私はそうとりました。ですから、最終的にこの評価に関わる人、関わらない人も知事会としての行動としては同一行動をとると、そういう意味にとらえていただければいいんじゃないかと思います。

(記者)

必ずしも全員の評価にこだわっておられたという訳では。

(知事)

全員と言ってもですね、それぞれあって、やはりどうしても前に出ている人と中間にいる人といういろいろ違います。これはそこまでやりますと、今度はなかなか難しい問題が出てきますので。ただ、流れとしては、評価が、立場は別にして評価は大体みな同じ評価が出てくると思うんです。

(記者)

もう一点、地方消費税の引き上げを求める提言については見送られましたけど、その結果についてはどのようにお考えでしょうか。

(知事)

やはり地方消費税というのは、地方消費税単独で議論するものではないと。これは前からそうなんですけれども、要はこういうことなんです。将来、消費税がもし増税になった時に、その配分について全く地方への関わりがないということではなく、地方分権の中で国対地方の税源配分を5対5にしようと言っている訳です。ですから地方消費税といっても地方だけの消費税を上げろと言っている話ではなくて、将来的な税財政改革があって消費税の税率が上がった時の配分については、地方への財源配分をきっちりしなさいよと、そういうことなんです。

もう一つは、その前提として、これは橋下さんもそう言っていましたし、私も前回の記者会見でも、特に国の行財政改革が進んでいないとお話しました。そういうものもきっちり踏まえて国民の皆さんに、どうしても必要だという認識を抱いていただけるような形で段取りを踏んでいかないとなかなか抵抗あるんじゃないのかと思います。

最終的には全国知事会も、国、地方ともどもの行財政改革、そして今後の税全体の構造というものを我が国の形として考え、今後の分権時代がどうあるべきかと、こういうことも踏まえた形の中で消費税という扱いになると思います。そこは、もしかしたらあまりにも地方分の消費税という誤解を受けるということで、表現等々が若干変わってきたような感じがします。

(記者)

ありがとうございました。

(記者)

知事ご自身のですね応援のスタンスについて改めて確認したいんですけども、街頭演説でマイクを握るとか、集会で応援弁士を務めるという直接的な応援をされる予定、方針はありますか。

(知事)

今のところございません。まあそれぞれ儀礼的な範囲での、電報だとか、そういうことは、要請に基づいて行っておりますけれども、私自身がそういう形で動くということは、議会にもそういうお話はしておりますので、直接選挙活動にはタッチをしません。

(記者)

そういう直接的な応援活動の要請というのはあるんでしょうか。

(知事)

ないですね。県議会であれだけはっきり言いましたので、ただ、電報とかメッセージが欲しいというのはありますけど。

(記者)

ありがとうございました。

(記者)

今回の選挙の争点について、知事は一番の争点は何だというふうにとらえていらっしゃいますか。

(知事)

非常に難しいですけど、マニフェストが重要だとは言いながら、気分的な問題がかなりあるのかなと思っています。福田さん、あるいは安倍さんと、どちらかというとなごやかで、私なんかとは全然逆で、非常に熟慮して物事をできるだけ波風立てないでスツとやると、そういうタイプの総理がずっと続いて、その前の小泉さんは、切った張ったのというタイプでした。麻生さんになった時に、我々が抱いた麻生さんのイメージっていうのは、べらんめえ調で、啖呵を切って、いざというとなごやかひっくり返すような、そういう感じを抱いていた・・・日本人好みなんですね。日本人というのは、どちらかというとなごやかとやるのが好みなんですけれども、実は麻生さんが全然それをやっとなごやかできなかったもんですから、国民の中にイライラ感が募っているんじゃないかと思うんです。

そういう中での、自民党の政権がこれまでやってきた不況対策、経済対策。私はこれがだめだということはないです。非常に効果的なものもあるし、ああいう形しかできないものもある訳で、全部肯定する訳じゃないですけども。しかしながらなかなかそれが評価されないというのは・・・ここまで解散がずるずる延びて、爽快感がないということで、それがイライラ感につながっているんじゃないかなと思うんですね。あまりこれ以上言うとなごやか・・・口は災いの元ですので言いませんけど。

(記者)

有権者が選ぶ際に、何を見極めて投票行動に出るといふふうにお考えなんですか。

(知事)

今、一番大きいのはやっぱり空気でしょうね。この現在の空気。ですから最近の首長選挙にあっても、旧来型のやり方は飽きている訳です。飽きる方がいいことかどうかはまた別ですが、不況でなかったらまた別でしょうけれども、現在の経済状況の中では、イライラ感が益々増幅していると思います。それに対して、そのイライラ感を払拭するようである時点で麻生さんがテーブルひっくり返して、俺は一人でもやるぞという、殺すなら殺してみろというくらいにやるんだったらスパッといたたけようが、何かそうでなかったということで、人相風体と心と、気持ちと大分違っていたという感じがします。これは私の感覚ですが・・・。

(記者)

あと一点、この後マニフェストを具体的に出されるかと思うんですけども、知事自身は、例えば農業政策とか何とか政策、どの点に注目をされる。

(知事)

マニフェストで我々が一番に挙げたのが、国と様々なその地方に関する政策を推進する

際に、正式な国と地方とのその協議の場、ある程度法律的な裏付けを持った協議の場を作って欲しいということです。これがないことには、常に要望、陳情の類になっちゃう訳です。ここがやはり一番のウエイトです。全国市長会としてもそこを一番強く言っていた訳ですから、地方六団体、少なくとも知事会、市長会はそういう点では一致しているということです。それよりもうちょっと進んだ形として橋下大阪府知事は首長、地方の首長に一定のいわゆる国会議員枠を与えるとやっている訳で、これはヨーロッパへ行くとき普通のことで、特別なことじゃないですけども、将来的にはそこまでいくということも考えられますが、ただ、その前の段階として、地方六団体と国との法定協議会だとか、そういうものを作って欲しいということを言っています。ここが一番の根っこです。具体的な個々の問題をそのテーブルに上げて議論しましょうと、そういうこととなります。これは非常に難しいかもしれません。国会議員がそれじゃあどうなるのかという話になりますから。ただ、我々としてはそれは譲れない点だという強い話をしています。

(幹事社)

他に関連するご質問ございますか。

(記者)

1点だけ確認ですが、先程マニフェストの採点について各知事によって積極的に関わる関わらないがあるでしょうというお話でしたけれども、知事とすれば積極的に採点に加わるということでもよろしいでしょうか。

(知事)

どういう形でやるのか、結局8月のお盆あたり前にこれを評価しなければならないと思います。いつ出てくるかということもあるんですけども、私としては、傍観者ではなくて関わる方の側に立つつもりです。ここら辺はこれからの手続きもありますので。

(幹事社)

その他のご質問ございますか。

(記者)

すいません。政権交代については、した方がいいとお考えですか。

(知事)

私の口からはちょっと、能動的なお話はしかねますけども、これも皆さん方には、前にもお話しました。客観的な情勢からすると、そういう可能性も十分あり得るということです。この前の会見の際にそういうお話をしたら、非常にクレームがついて、メールがたくさん来ました。何かわからないですけど県外からたくさん来ました。

(記者)

例えば、1つ例を挙げると、どういうメールがあったんですか。

(知 事)

例えば、麻生総理の政策を正当に評価せずして何でそんなことを言うのかとか、そういう話が幾つか来ていました。あるいは、自民党はやってみれば強いんだと、そういうお怒りはまたごもっともであります。私の立場でそういうことを言えば当然リアクションがあるということです。

(幹事社)

他はよろしいですか。

(記 者)

すいません、関連というより全然その他の質問なんですが、今回の大雨被害のことについてなんですけれども。新城川が、毎週のように避難勧告が出るという状況があった訳なんですけれども、こういった状態について知事として今どのようにご覧なっていますか。

(知 事)

雨の降り方が今までと違って、特に太平山の西側斜面が非常に雨が多くなっているということで、あそこにしわ寄せがいつてる感じです。秋田市長時代から新城川の改修というものをスピードアップしていただきたいということでお話していました。少しはスピードアップなっていますけれども、まだ全面的にというのはもうちょっと時間かかるのかなと思います。ただ、ああいう状況ですので、国に対しても予算要望しながら、我々も少しでも頑張っていかなきゃならないのかなと思っています。

(幹事社)

他はよろしいでしょうか。ないようなので、ありがとうございました。